

茶碗いろいろ

—肥前(伊万里)を中心に—

本書の文・料理を担当された島崎とみ子先生は、退職を期して66～68歳の42点の茶碗を寄贈されました。

東京大学理蔵文化財調査室・堀内秀樹先生による年代鑑定とともにご紹介いたします。

これらは先生が江戸時代の料理を制作するさいに、ごはん料理をテーマに収集された貴重な品々です。

写真／島崎とみ子

伊万里



年代 1750～1780
直径(cm) 11.1
高さ(cm) 5.8

望料碗。帯部の四方禪文、草花文の花は中国製品の写し。



年代 1750～1800
直径(cm) 11.5
高さ(cm) 5.9

望料碗。染錦手。素焼、本焼、色絵、金彩と少なくとも4回は焼いている。上質の製品。草花文。



年代 1750～1800
直径(cm) 11.2
高さ(cm) 5.3

望料碗。望料碗は当時の生産地での呼び名、井の初現か。岩牡丹文。



年代 1700～1740
直径(cm) 10.9
高さ(cm) 6.1

草花文。圏線は四方禪文、見込みは五弁花。



年代 1750～1800
直径(cm) 11.6
高さ(cm) 6.4

望料碗。染錦手。松竹梅文。



年代 1750～1780
直径(cm) 11.3
高さ(cm) 6.3

有田外山広瀬窯のもの。朝顔型茶碗。品質的にはあまり上等ではない。民芸運動の中では見直されている。



年代 1750～1800
直径(cm) 11.5
高さ(cm) 6.5

染錦手。少なくとも4回は焼いている。高台の模様が○×で18世紀の後半によくある模様。上質の製品。



年代 1750～1780
直径(cm) 13
高さ(cm) 6.9

望料碗。圏線は四方禪文。牡丹唐草文。見込みは松竹梅で日本的な模様。



年代 1770～1820
直径(cm) 10.9
高さ(cm) 5.9

おそらく広瀬窯。望料碗。葉描き。清朝時代の影響を受けている模様。



年代 1770～1820
直径(cm) 11.1
高さ(cm) 5.9

望料碗。素描き。紫陽花文。



年代 1770～1790
直径(cm) 11.3
高さ(cm) 6.1

望料碗。中国の銘であるが、この年代に日本で好んでこの銘款が使われた。網干文。



年代 1750～1800
直径(cm) 11.4
高さ(cm) 6.2

望料碗。染付。